

みぶ町政だより



1

月号

昭和52年1月24日発行

発行所 栃木県壬生町役場（毎月24日発行）

昭和34年9月30日 第三種郵便物認可 一部9円

賀 正



寒風高く凧上げ大会

1月9日午前10時から思川の堤防で「親子凧上げ大会」が盛大に行われました。

昨年からはじめた第2回目の凧上げ大会は、昨年と違って、どんよりの曇った北風の微風であったが、それでも250人ほどの参加者があり、親と子どもが一生懸命に上げようと約200個近い凧が舞い上がり、それぞれ技を競い合いました。

今年は、手作りの凧も多く、形や色彩も考えた珍しい凧がいくつか見られました。

凧は、200メートルも高く舞い上がるものや、中には隣りの凧とからみ合うものなど様々でした。

手作りのもので量1疊ほどあるような大凧から小さな双凧、中には市販されている西洋凧も上げられました。

1時間ほど上げた後、優秀な凧には賞状と賞品が贈られ、また、そのほかは、参加賞として中里玩具店や玩具団地の各社から戴いたオモチャがプレゼントされ、子どもたちは大喜びでした。

今月の人口

1月1日現在	対前月比
総人口31,761	49人増
男 15,764	27人増
女 15,997	22人増
世帯数 8,088	9世帯増

2月は「郷土を愛する月」です（まず近く的环境から）

合、時代にそぐわないものとなり、単に見直しというだけでなく、新しい時代に対応した新しい長期計画の策定にせまられ、果においても昭和五十二年を初年度とし、昭和六十一年を目標とした「長期総合計画」を策定し、船舶知事は「藩政あふれた地域づくり」を、そして昭和五十二年の県政のありき方向を明らかにしたところで、

私は、これら上位機関の厳しい中にも、ある諸体制ならびに社会情勢をふまえて、地方自治体としての自主性を保ち、新しい地域的課題、行政需要に対応すべく、快適な環境と心豊かな生活づくりをめざし、心豊かな人づくりの推進」「くわい環境づくりの推進」「くわい環境づくりの推進」

「生がいのある住民福祉の充実」そして「豊かな生活を生む産業の振興」を四本の柱とした「生町新振興計画」を策定いたしました。

この計画は、上位機関との整合性を保つため、昭和六十一年を目標とした基本構想、そして昭和五十五年を目標とした基本計画、さらにこれらを単位とする実施計画にわかれており、町議会をはじめ町企画委員会等の協力を得て策定するものと、

昭和五十二年の予算編成にあたりましては、本計画を基調として健全財政を維持し、活力あふれた施策を積極的に推進して、町民のみなさま方の「要望に応えられる行政を確立した」所存であります。

町民のみなさま、新年おめでとうございます。

迎える昭和五十二年の新春を輝かすにあたり、一言年頭の挨拶を申し述べ、みなさま方の今後の行政に対するご協賛と執行についてのご理解を、ご協力、ご支援を切にお願ひ申し上げる次第です。ご承知のとおり、昨年よりかえって、正に「生」の名にふさわしい話題が数多く提起され、日本全体が激震にあわられました。政界においては、アメリカにおける大統領選挙、大きな期待をにやふター新大統領が誕生し、また、国内ではロッキード事件に端を発し、国会は任期満了による衆議院議員の総選挙が行われ、そして保守党の仲で三木内閣から福田新内閣へとトントンチが行われ、新しい局面での政治が全国民の希望となつてあらわれたわけでは、

経済界においては、一昨年度の国際的インフレが更に進展し、全国民の動向と総需要抑制を存続させ、これらに伴う諸物価の値上がり、かつてない数の企業倒産と悪循環が幾、厳しい試練の中に立たされてまいりました。

総じて内外共に衝撃的な事件が起き、正に天にのぼって雲をおし、雨をにらせるという偉大な年のでありました。

当然にこれら状態は、地方自治体にも波及し、公共事業の削減、繰延べなど一般住民へのし

その本質について申し上げますと、まず、人づくりの環となる学校教育については、教育効果の引上げをねらひ、新しい課題であつた「生」、稲葉岡中学校の統合として、生涯教育の一環である文化財保護対策として史跡公園の整備を推進したいと思ひます。

また、環境整備事業として、その基本となる町道の見直し検討を行い、町営住宅について現在下台団地に四十戸を建設中であり、また、計画に基づき増設を図り、住宅供給に役立てたい所存です。

下水道事業については、一市三町のご協力により、巴波川流域下水道事業の推進のために努力したい所存です。

また、長年懸案となつておりました生町駅周辺を含む雨水排水施設の建設に着手したい考えです。

福祉行政については、昨年月に「生町社会福祉協議会」が発足され、今後ますますのご協力を、なほ、一層の運営を図りたいと考へております。

また、農工商の振興策の一つとして、勤労青少年ホームの建設と行政の体質改善をふまへながらき細かい行政を推進する所存です。申すまでもなく、これは諸施策の遂行にありましては、町議会をはじめ町民のみなさま方の「ご協力、ご支援をいたしたければなりません。



一月十五日は、成人を祝う「成人の日」です。

五二四人が 晴れの成人に

そのために、新年予算編成の方向けとして実施しております町政緊急会議等を通じて、意見は十分に採擇し、住民参加による行政をより一層充実させたいと考へておりました。

最後のものであります。三万一千七百余人に及ぶ最大の町として、市制後の体制を要しなければならぬ意義深い新年を迎え、あらためて責任の重大さと使命感を痛感いたします次第です。

みなさまにおかれましては、これらの事をふまえて、生町発展のため、限りなく「ご協力とご支援を賜り、この状況を克服でき、晴れやかなるもの」であります。

誠にばかやうな抱負を申し上げますが、終りにみなさま方の「ご健勝と益々の「ご発展」を祈念申し上げ、新年を祝ひの私の「挨拶」にさせていただきます。

一月十五日は、成人を祝う「成人の日」です。

この日は、県内で成人になった人は、八二八七人、男一四四五〇人、女三八三七人、もおります。

生町では、この日午前十時から中央公民館で、第二十八回の成人式が盛大に行われました。

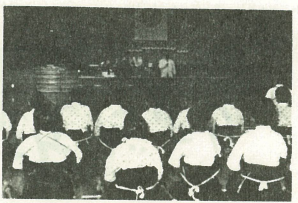
本町で成人になった人は、男一四七人、女一七人、計五二四人が晴れの成人式を迎えました。

今度成人になった人は、昭和三十一年四月二日から昭和三十一年四月一日までに生まれた人たです。

地区別にみると生地区三二人、稲葉地区二五人、南側地区六八人です。

昨年と比べて五人増ったことになります。

式には、町長はじめ来賓の方々から祝いと励ましの言葉を授け



豆剣士が

剣道納会

な成人者は、「これから力をつけな社会人になります」と祝儀の中にも新成人としての責を新たにしました。

1977年

年頭に当って

壬生町長 佐藤三郎



恒例による新年賀状が一月五日、午前十時から中央公民館で多数の出席を戴いて盛大に行われました。

その席上で佐藤町長は、昭和五十二年の町の発展に対する抱負をこのように述べました。

町民のみなさま、新年おめでとうございます。

迎える昭和五十二年の新春を輝かすにあたり、一言年頭の挨拶を申し述べ、みなさま方の今後の行政に対するご協賛と執行についてのご理解を、ご協力、ご支援を切にお願ひ申し上げる次第です。ご承知のとおり、昨年よりかえって、正に「生」の名にふさわしい話題が数多く提起され、日本全体が激震にあわられました。政界においては、アメリカにおける大統領選挙、大きな期待をにやふター新大統領が誕生し、また、国内ではロッキード事件に端を発し、国会は任期満了による衆議院議員の総選挙が行われ、そして保守党の仲で三木内閣から福田新内閣へとトントンチが行われ、新しい局面での政治が全国民の希望となつてあらわれたわけでは、

経済界においては、一昨年度の国際的インフレが更に進展し、全国民の動向と総需要抑制を存続させ、これらに伴う諸物価の値上がり、かつてない数の企業倒産と悪循環が幾、厳しい試練の中に立たされてまいりました。

総じて内外共に衝撃的な事件が起き、正に天にのぼって雲をおし、雨をにらせるという偉大な年のでありました。

当然にこれら状態は、地方自治体にも波及し、公共事業の削減、繰延べなど一般住民へのし

わよせとなつてまいりました。このような状態は、依然として続くものと考えなければなりません。高度経済成長により身についた消費の感覚を原点にもとし、節約と物資を大切にすることを新たにして、この現状を乗り切らなければならないと思ひます。

幸いなおにおいては、町民各位の偉いご努力、そして県をはじめとする上位機関の温かいご協力、ご支援によりまして、計画された予算執行は順調に進み、明るく住みよい町づくりの建設にあつたに心をから敬意を表するものです。

この機会にその主なものを紹介いたしますと、昨年一月に着工いたしました新設小学校は、計画どおり、本年四月の開校に向い主体工事が完了し、現在付帯工事が順調に進んでおります。

校長も壬生町立陸小学校和決定し、総数五百余人の生徒が勉学に励める近代的な設備が整備された学校です。

また、生活環境整備の一環として建設中でありました農村生活センターも一月に完成し、広く研修の場として活用されております。

町営住宅においては、従来のひばり丘団地が計画完了となつたため、新たに下台団地に十六戸を建設いたしました。

さらに、公衆衛生上極めて重要な下水道施設については、近代的な設備として前処理施設が完成

し、衛生上、能率上からもその機能、充分分かっております。

その他の事業についても計画どおりの予算執行であり、誠に慶賀に基きながら、

さて、「一年の計は元日にあり」と申されますが、昭和五十二年を迎え、心新たに町発展のために努力する所であり、

町民みなさまの不断の努力と各企業の堅実な経営手腕期待し、この厳しい経済不況を乗り切るべく、みなさまのなご一層のご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

全国民の願いである景気回復を目標とし昭和五十二年の政府予算案は、景気の着実な回復を図ることを旨子に国民福祉の充実に配慮し、国民生活と経済の安定を調えるため、公共事業の拡充や景気調整のための条項を取り入れ、福祉予算の増進を内容として、一般会計予算二十八兆三千億円の大型予算が組まれる予定であり、前年に比較し、約六分の伸びを示すものと思われ、

これらの内容をふまえて経済の静かなる安定成長をねらい、物価の安定を図つての生町関連施策に重点をおくものと判断されております。

このよき状況のもと、昭和四十五年に策定された町政発展長期計画ならびに町振興計画については、その後の経済状況の大きな変化により基本的背景を考慮した場

— 迎 春 —		町長 佐藤三郎		助役 佐藤三郎		収入役 佐藤三郎		外役場長 川野辺 弘二		副議長 大橋 茂雄		議員 梁 島 左 門		議員 青 柳 健 吾		議員 小田 正 三		議員 鶴 見 誠		議員 早 乙 女		議員 松 本 辰 蔵		議員 田 中 武 吉		議員 鈴木 孝 一		議員 高 木 義 雄		議員 杉 本 幸 明		議員 橋 本 典 彦		議員 高 山 正 一		議員 植 木 武 雄		議員 大 栗 丹 波		議員 三 上 義 正		議員 大 橋 正 一		議員 市 義 正	
---------	--	---------	--	---------	--	----------	--	-------------	--	-----------	--	------------	--	------------	--	-----------	--	----------	--	----------	--	------------	--	------------	--	-----------	--	------------	--	------------	--	------------	--	------------	--	------------	--	------------	--	------------	--	------------	--	----------	--

歳末たすけ合い募金

ありがとうございました

みなさまのあたかい善意は、
その他の支出金と併せて次のよう
に配分させていただきました。

〇別荘費 六〇七、七四〇円
〇戸別助成金 二六〇、四二二円
〇篤志寄附金 二六〇、四二二円
〇社会福祉基金 五五〇、五二二円
〇その他 二〇九、九七二円
計 一、四四九、六七〇円

〇被保護世帯 二七〇、〇〇〇円
〇保護世帯 四二〇、〇〇〇円
〇施設入所者および長期入院療養者 四四〇、〇〇〇円
〇在宅重度障害児 三三〇、〇〇〇円
〇独居老人 一五〇、〇〇〇円
〇ひとり暮らし老人慰問品 五九、九四〇円
〇せせらぎ学園慰問品 三〇〇、〇〇〇円

〇ハンセン病児募金 六〇〇、〇〇〇円
〇事務費 一四七、三〇〇円
計 一、四四九、六七〇円

〇篤志寄附金の内訳
〇輸出入具工場地租組合 二七〇、〇〇〇円
〇壬生町議会 三〇〇、〇〇〇円
〇壬生小児会 二四〇、〇〇〇円
〇壬生郷友会 二五〇、〇〇〇円
〇壬生小児会 一五〇、〇〇〇円
〇壬生町金庫クラブ 二四、七八〇円
〇民謡山会 九四、二五〇円
〇古河青柳壬生工場九七、八五〇円
〇宇知大崎高橋壬生会六、八〇〇円
〇壬生町花会 五〇、六〇〇円
〇壬生町母子福祉会 三三、三〇〇円
〇田村（佐藤）鹿馬 一三、二〇〇円
〇青木 治子（堀）堀主田浦和子 三〇、〇〇〇円

第二回町民将棋大会

壬生将棋愛好会の発足記念お
よび将棋を通じて、町民相互の
友好親睦を図ることを目的に
開催しましたので、多くの参加を
お待ちしております。

〇とき 二月二十日（日）
午前九時三十分から
〇ところ 中央公民館
〇会費 一人一〇〇円

（食費付）
〇入賞者 賞品 賞状 賞状
〇資格 町内在住者または町
内在職者に限る。
〇申込先 二月十七日までに
杉山陽生 電話（五五五）〇
主催 壬生町将棋愛好会
後援 壬生町教育委員会
柳フツ子将棋部

「青年の船」に参加して

（その二）

根津 文夫

本土復帰四年半を迎え、沖縄の
四分の一は星条旗と日の丸国旗が
掲げられている軍用地で、ベトナム
戦争の際、連日核戦力重機撃機
B52が三機編隊を組んで出撃して
いたアジア最大の規模艦隊を誇る
嘉手納飛行場を有する嘉手納町で
は、九パーセントが軍用地に聞
く。

返還後も要港化した軍島、沖縄
の機能は変わり、基地縮小とい
う期待が裏切られた沖縄の人々の
家並みは七色の海に面して、ひつ
そりたふらふらと、私は（団員）
と訴えているかのようにであった。
（一）の丘からの眺めは、まぶし、太
陽に照らされ、若い海がエミラル
ドグリーンに輝き、いた。

一面に人間の死体が漂うという
まさにこの世の地獄絵図が繰り広
げられたなどとは想像もつかない
ほどである。
この悲劇の地には、各県の見事
な慰霊碑が林立し、戦争を憎み
平和を願うというよりも虚無シ
ンボルとさえ受け取られる。
本県出身三万二千余柱の英霊を
まつる納木塔の前には、（御霊
よ永遠に安かれ）の記念柱を立て

冥福を祈った。合せて、本年十一
月十日、壬生町に慰霊碑がらっ
ぱに建立されたことを、私はこれを
基盤に伝えた。戦後三十二年にして、
今に残る戦争の悲劇を、苛
酷な、むなしい、これら戦死者の悲
劇を物語る納木塔に、見えないよう
な気がする。

神社の清掃奉仕

下表町老人会、小田垣覚徳会長
（では、昨年十一月二十四日午前
十時から、地元の愛宕神社の
清掃が行われました。



その二十五（完）

独協医科大学胸部外科 教授 堀 江 昌 平

科学的発達に伴い、社会の各分
野は細分化されて、各分野には
エキスパートが出現する世となり
ました。

外科領域においても例外ではな
く、今や身体のごく一部をメスを入
れるに代わり、臓器別に天
々の専門医が必要となつてしま
した。

胸部外科とは、一口に云つて、
胸壁及び胸腔に取り囲まれている
臓器の疾患、即ち心臓及びその周
囲の大血管、肺臓、横膈膜、食道
縦隔等の疾患を手術的に行はな
治療する科です。

従つて多岐化する専門知識の為
に、胸部外科医自体も肺臓を専門
とする、心臓または食道を専門
とする者等に別れて来ているとい
う。悲劇の主人公として、慢々
登場した肺臓も、今では、化学
療法と手術の併用により、斜陽化
疾患となり、代わつて、大気汚染
公害、喫煙等の因子の相乗作用に
よつて肺がんが急速に上昇の一途を
辿つており、今や癌死上層の上位
を占めている現状です。

近頃咳が止まらぬ、また
血痰がらしいのが混じつて、体
の調子が悪く瘦せて、貧血気
味になったり、呼吸が少し短くな
り、または、胸部に時々痛くも
します。

感じる等の症状が起る時には、
早目に胸部を専門とて医士にレ
ントゲンの一枚でも撮つて貰つた
方が安心でしょう。

また、最近物を呑み込む時に胸
がつく感じがしたり、胸骨裏で
しこりを感じる様な感じの方は、
胸部X線写真の様な検査も
くわしくつて貰つた方がよいと
思います。

新生児で乳を呑む際、或は笑つ
たりした際に口唇が紫色になる児
または、乳幼児で既に先天性心疾
患があると指摘された方は、心臓
カテーテル等心臓の検査を受け、
手術の適応を決めて貰つた方が良
いのです。

先天性心疾患の大部分は、手術
が可能であり、外科的治療を受け
る事によって、天命をまつてしま
します。

手術適期は、一般に五六才
頃が手術成績は良いのですが、そ
れ迄待てない、重篤な変化が起つた
場合には、出来るだけ早い時期に
手術を受け、出た方が、最近では
乳幼児における安全性も向上して
います。

以上のような疾患には、積極的
に手術を受けて社会活動などにど
んと復帰なさつた方が賢明だと思
います。

現況届の提出を

お忘れなく

国民年金の老齢年金、通算老齢年金を付けているみな
さんは、毎年一月十五日までに、「国民年金受給権者現況
届」を提出することになっています。

この現況届は、受給者のみなさんが今後引き続いて
年金をうけていくかどうかを認定する大切な届です。
もし、二月十五日まで現況届を提出しませんが、六
月支払分から年金の支払いがとられなくなることもあ
りますので、ご注意ください。

現況届の用紙（ハガキ）は、一月中旬ごろまでに社会
保険庁業務課から受給者のみなさんへ直接送付されま
すので、到着次第、必要事項を記入の上、町長の証
明をうけて、一月十五日までに、かならず社会保険庁業務
課へ提出してください。

なお、昨年の二月十六日以降に年金をうけるようにな
つた人は、今年も現況届を提出する必要があります。
したがって、現況届の用紙も送付されません。
不明の点は、役場国民年金係へおたずねください。

国谷チームが優勝

第三回個人バレーボール大会が、
上月十二日に町民体育館で大勢
の選手が参加して行われました。
この日は、日頃の練習を果敢と
して、それぞれ戦力が展開されま

道路へ水をまくと

交通事故の

なりましたから

やめましょう

朝の寒さが一段と厳しくなりましたので、水道の凍結には十分注意してください

お知らせ



赤ちゃん

健康相談

●とき 二月四日(金) 十八日(金)
二十五日(金) 三月四日(金)

●ところ 中央公民館 保健室

●該当児 検診を受けたおたおさん、および、九カ月、一歳児

●持参するもの
母子健康手帳を忘れずに

乳児検診

●とき 二月九日(火) 十六日(火)
一時二十分―一時三十分

●ところ 中央公民館

●該当地域 いずれも生地区(一)

2月の納税
お忘れなく
固定資産税 第4期分
国民年金
1、2、3月分

ひばりヶ丘、釜ヶ淵 本坪も
含む) 藤井地区です。

●九日 昭和三十五年六月一日
から七月十五日までに
生まれたおたおさん、
十六日 同年七月十六日から八
月三十一日までに生ま
れたおたおさん。

三カ月児検診

●とき 二月十三日(火)

●ところ 午後一時二十分から
中央公民館 日本間

●該当児 十月二十日から十一月
十九日まで生まれた
おたおさん。

母子健康手帳を忘れずに。

一般健康相談

家族計画から成人病などの相談
についてお気軽にお出かけくだ
さい。

当番医師のお知らせ

二月の日曜祝日は、次の医師以外は全部休診になります。
◎当番医師の往診はできません。

日	町名	医 院 名	電 話
六日	舟町	早川 医 院	02110
十一日	栄町	松本 医 院	20002
十三日	上通町	小倉 医 院	00557
二十日	仲通町	木村 医 院	00506
二十七日	上稲葉	渡辺 医 院	10330

時間は午前九時から午後四時

●とき 二月十六日(出)

●ところ 午前十時正午まで
中央公民館 保健室

廃大引き取り日

いらない大は、はなさないで廃
大引き取り日に出してください。

●日 程 二月九日(火)

●場所 および時間
役場庁舎 九時十分まで

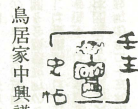
●南大橋支所 九時十分まで
稲葉支所 九時十分まで

◎大は、つないで伺いましょう

免許更新時講習

二月の日程は、次のとおりで
す。

●八日(火) 中央公民館
●二十三日(火) 独協医科大学
時間はいずれも午前十時から



鳥居家中興譜について

(その八)

その時、忠吉は、にこにこしながら人々に向って「竹千代君が、年寄の私によくならねえんで、いつも、私とよく言っ通って、いられが竹千代君が普通の人のたつたら、きつと皆さの言う通りでしよう。しかし、幼君(竹千代)のお心、が広いために、このように、私のせがれを戒めなされるのだ。竹千代様は、平凡なお人ではな、必ずまたとい立派な大将となられる器量がある。私はもはや、年老いて(当時八十才ぐらいたったといふ)今後いくらも生ないであらう。皆さんや彦右衛門の将来は、本當にたのしい、かりそめにも竹千代君を、おろそかに思うようなことがあってはならない」と、かえって人々が竹千代の行を止める言葉を押さ竹千代の質がすぐれていることを感じて喜んだ。後の人は、この事を聞いて忠吉の言葉は、筋道が立っており、また、将来のことを考え、忠吉の見通し通りまがえなかったとますます感心した。竹千代が今川家の人食だった頃は、義元から竹千代(の扶助)と

191

えられる金や物が、本當におつて、かて衣服をととのえ金にも足りず、御白所の費用、竹千代が生活するための諸費用は、すべて忠吉が調達した。竹千代についていた者たちも、貧しいのを知って我後をしながら協力した。忠吉は、先祖から家が豊かでお金を多くもつてたが、お金をすべて竹千代のために費して、困るのを救った。忠吉は、岡崎に住んでいるうちに、義元にかくれて倉庫を作り、米や銭が手に入ると秘密にこれを倉に取めた。このようにして、年月のたつと共に倉庫にあるものがふえていった。そして、東照宮(家康その頃元康)が十九才の時に、今川義元が戦死したため、人質から解放された。再び岡崎城に還り岡崎城主となった時、忠吉は元康のお供をして、その倉庫を開き「今日、元康公に御覧に入れたため私は、今川義元に内請で長い間苦辛して、この米や銭を貯えて置きました。それは、元康公が岡崎城に入られて、今後勢力をのばすためには家臣を沢山養わなければならぬので、その費用にあてるため貯えるのが私の老後の役目と心掛け私が生きている間に元康公が、この岡崎城に移らせられるのを見たいと、朝夕願っています」。

『筆者 豊田』

“お知らせ”がおくれますから早く配布しましょう。